

一般質問



仲村千鶴子 議員



録画映像

肺炎予防対策に関する件

問 高齢者に対するRSウイルスワクチン接種助成は

答 市長 国の審議会の動向を注視し、必要な対応を検討してまいりたい

問 令和6年第4回定例会において、RSウイルス感染症予防策に関する質問をさせていただきます、「国の安全性・有効性などの検討状況や他市町村の動向を注視し、助成の必要性などを見極めて対応を検討してまいりたい」との答弁をいただきました。

うれしいことに令和8年4月から、妊婦向けのRSウイルスワクチン（アブリスポ）が公費で受けられる「定期接種」となる方針が打ち出されました。

一方、高齢者の場合、慢性肺疾患、慢性心疾患、腎機能障害、糖尿病などの基礎疾患を持つ方が多く、加齢による免疫低下によってRSウイルスに感染しやすくなります。

日本では、60歳以上の高齢者における

RSウイルス感染症の年間の患者数は10万人以上と推計されているため、基礎疾患を持つ高齢者の健康を守り、医療費の削減になると考えますが、市としてのお考えを伺います。

答（市長） RSウイルス感染症は、呼吸器感染症であり、多くは風邪と同様の症状のみで自然に軽快すると言われていますが、乳児や慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者においては、重症化のリスクが高くなる疾患です。

当該疾患に関しては、令和6年3月より、国の厚生科学審議会において、小児及び高齢者の予防について審議されていますが、これまで、先行して小児の予防に関する検討が進められており、本年4月から、妊婦への接種により、新生児に免疫を付与する、母子免疫ワクチンの定期接種化が決定したところです。

高齢者の予防に関しては、全国的な発生病向や重症化に関する知見等の疾病負荷に関する情報が少ない現状を踏まえ、現在、調査が継続されている段階です。

質問の高齢者のRSウイルス感染症の予防に関する考えについては、高齢者の皆さまの健康を維持するためには、自身での日常的な感染予防への取り組みが、最も重要であると考えています。

現在、RSウイルス感染症をはじめとした呼吸器に関する感染症について、基

本的な予防対策や流行に関する情報等を市のホームページに掲載するほか、保健師が地域の老人クラブやサロン等を訪問する機会に、直接、高齢者の方に周知・啓発を実施していますので、今後も状況に応じた注意喚起を継続し、高齢者の皆さまへの感染予防を促進してまいりたい。

また、高齢者への予防接種については、現在、国の審議会において定期接種化の調査・検討が進められている段階であり、審議には時間を要するものと考えられますが、引き続き審議会の動向を注視し、必要な対応を検討してまいりたい。

問 令和8年4月から妊婦向けのRSウイルスワクチンが公費で受けられる定期接種となりましたが、準備についてお伺いします。

答（子育て支援課長） 令和8年度の対象者は、210人の妊婦を想定しており、対象の年齢になった際には随時、直接通知します。

併せて、ホームページのほか、子育てアプリ等でRSウイルスワクチンが定期接種化になったことを周知してまいりたい。

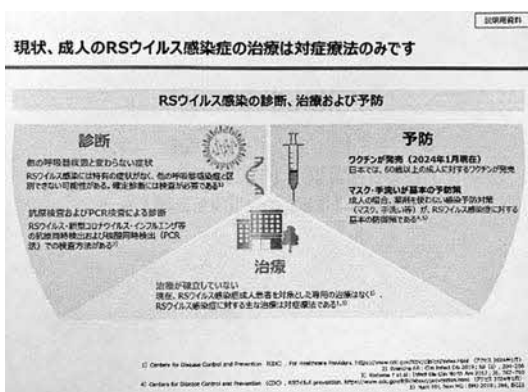
問 肺炎球菌ワクチンとRSウイルスワクチンは、どちらも肺炎が原因となる病原体を防ぐものですが、対象となる病原体は細菌かウイルスだと思えます。

特に、RSウイルスに感染すると4日

から5日の潜伏期間を経て症状が見られます。

高齢者で疾患のある方は、重篤な症状につながる場合があるとされており、予防接種費用も1回3万円以上と、自己負担で3万円の予防接種を受けるのは難しいかと思いますが、このことについて市としてのお考えをお聞きます。

答（保健福祉課長） 国の審議会において、高齢者に関しては重症化の割合、発症件数、国際的な研究結果に基づいた推計値は公表されているが、国内での重症化の割合など情報がなく、専門的な部分で市町村として判断が難しく、審議結果を見据えて、注視しながら対応を考えてまいりたい。



出典：グラクソ・スミスクライン